

冬櫻とほきうしほの音とどく

藤田湘子

手元にこの句を揮毫した小さな絵馬がある。いつも壁に掛けていたので板は黄ばみ、紫の紐はすっかり色褪せてしまった。なお、句集で発表された表記は桜にも漢字を使っているが、「冬さくら遠きうしほの音ひゞく」となっている。書家の字とも一味違う、書き慣れたメリハリのある見栄えの良さがある。

長く国鉄に勤務し、本社広報部でPR誌『R』の編集を担当。誰にでも読みやすいデザイン的な感覚や書風を独自に身につけたのではなからうか。

湘子は小田原の海育ち。生家は海まで200メートルも離れていない。毎日「潮の音」を聞き、何かにつけ海の情景や匂いが思い出されたことだろう。

1986年（s61.01.18作） 第八句集『春祭』 鑑賞・轍郁摩